

「ドクちゃん フジとサクラにつなぐ愛」

日本映画 / 72 分 劇場公開：2024 年 5 月 監督：川畑耕平

ベトナム戦争時に、米軍が使用した枯葉剤によって結合双生児として生まれてきた、ベトちゃんドクちゃん。分離手術は成功したものの、不幸にも兄ベトは 2007 年に亡くなりましたが、結婚し家族を持ったグエン・ドクの活動と家族の姿を、ドキュメンタリー作家の川畑耕平監督が、記録した作品が本作です。



ベトちゃんドクちゃんが生まれたのは、1981 年。ベトナム戦争は 1975 年サイゴン陥落で終結していますが、そのベトナムで結合双生児だけでなく、枯葉剤による影響と思われる大きな障がいを持って生まれてくる子どもたちが増えてきた報道に、多くの日本人も関心を寄せました。

枯葉剤には生物の将来に大きな問題を残す、ダイオキシンの一種が含まれていたのです。

日本でも当時、ダイオキシン＝汚染物質としてごみ焼却炉の更新や（ダイオキシンが発生しないように）農薬などの見直しがなされました。

本作は、そういった背景より、主にドクさんの家族の姿に焦点が当てられています。グエン・ドクと妻ティ・タイン・テュエンと二人の子どもたち（フジとサクラ）から見える人間関係は、どこにでもあるような家族の姿といえないこともないのですが、しかし、グエン家は・・・。

ドクさんは、時に、子どもたちに自分たちの生まれた姿を展示する戦争ミュージアムを見せたり、確執が残る母親や父親と面会したりもします。このあたりドクさんの思いが伝わります。

本作の中で、ドクさんが枯葉剤で多くの被害を出したコントゥム市の行政機関を訪ね汚染除去の進捗を質問したりする姿を見ることも出来ます。

また彼は日本の学校も訪れます。ドクさんの活動は忙しいのですが、健康面での不安もあります。枯葉剤の影響がどこまで続くのかの治験などもなく、彼の子どもたちの将来にも不安を感じているらしいのです。そんなドクさんの活動と父親を気遣う家族の姿をご覧ください。そして、気になること、忘れてはいけないことは、調べることが大切です。

平和が大切。家族っていいね。などと綺麗ごとだけではなく、ドクさん自身も体験していないベトナム戦争。しかし、ドクさんだけでなく多くの人々に不幸を強いた枯葉剤。戦争でそれを散布した米国は枯葉剤散布の賠償などはしていません。

ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザでの戦闘が行われている今こそ、観るべき映画なのではないでしょうか。

監督：川畑耕平

「境界を押し広げる」ことを得意とするドキュメンタリー作家兼プロデューサー。5 大陸の 33 か国以上と米国の 16 の州を旅し、エジプトの内乱、アリゾナ国境警備隊による不法移民の処理、デヴィッド・ボウイの日本への愛をテーマにした作品など、さまざまなドキュメンタリーを制作。人種、宗教、政府による抑圧が交差することに目を向け、世界中の疎外された声を引き出す作品作りを続けている。（公式 HP より）

ベトナム戦争と枯れ葉剤被害を巡る主な出来事

1961年	▶ 米軍が枯れ葉剤をベトナム南部に散布（～71年）
65	▶ 米軍が北ベトナムへの爆撃開始
75	▶ サイゴン（現ホーチミン）が陥落し、戦争終結
76	▶ 南北統一、ベトナム社会主義共和国成立
81	▶ ベトさんとドクさんが誕生。ハノイのベトナム・東ドイツ友好病院へ
83	▶ ホーチミンのツーズー病院に移る
86	▶ 兄ベトさんが急性脳症で意識不明。日本で治療を受けるも寝たきりの状態が続く
88	▶ ツーズー病院で分離手術に成功
2000	▶ ベトナム政府が被害者に補償金の支給開始
03	▶ ドクさんがツーズー病院に就職
04	▶ 枯れ葉剤被害者が米製薬会社を相手に訴訟を提起（2009年にニューヨークの連邦地裁が不受理）
06	▶ ドクさんがテュエンさんと結婚
07	▶ ベトさんが26歳で亡くなる
09	▶ ドクさん夫妻に双子のフーシーさんとアインダオさんが誕生

（東京新聞記事より引用）

